

KSKR HIT ニュース No.63 Dec./2023

表紙:天王寺公園エントランスエリア「てんしば」

天王寺公園エントランスエリア「てんしば」は、カフェ、レストラン、フラワーショップ、子供の遊び場、総合ペットサービス、フットサルコート、コンビニエンスストアなど、公園と街の新しい楽しみ方が生まれる拠点です。また、天王寺動物園ゲートエリア「てんしばイーナ」は、約 5,000 m²の敷地に飲食施設やアクティビティ施設、動物園グッズショップ、イベント広場など、天王寺動物園と「てんしば」を結ぶにぎわいの場となっています。

巻頭 言

ネットワーク構築が 多くの「可能性」を見つける

矢野紙器株式会社 就労移行支援事業所
ネクストステージエイブル 川崎 敏行

ネクストステージエイブルにてサービス管理責任者として働くことに誇りを持っています。母体である矢野紙器株式会社は、約60年前から障害者雇用に取り組み続け、現従業員は知的障害や聴覚障害、精神障害の方々と、今でも「現場力」にこだわって、就労支援に携わっています。

私は20歳から作業所で支援員として働き始めました。その中でなかなか自分の思うような支援ができず、もどかしさでいっぱいでした。その後、障害者職業センターで7年間、配置型ジョブコーチとして働きました。この期間に先輩から様々な助言を受け、また色んな本を読むようになり、ようやく点が線につながりました。

しかし悩みが尽きることはなく、実際の障害者雇用の現場へ出ると、企業からは「働く上では、最低限知っておいてもらいたいルール」「身に付けてもらいたいスキル」といったニーズがたくさんありました。

そんなスキルを付ける支援がしたいと考えていた折に、就労移行支援事業所からスカウトされました。就労支援の現場においては、それらを伝える時間があるので、喜んで転職しましたが、実際には入職して3日で事業所が潰れてしまいました。準備期間中はさまざまなプログラムを作成していた「働くための細かいアセスメント」が貯蓄できました。

最初の事業所が倒産してから、別のB型事業所でサービス管理責任者として働きましたが、なんとB型事業所もたった半年で潰れてしまいました。しかし、その半年間で多くの知り合いができ、矢野紙器(株)の求人を紹介して頂きました。面接の時には社長から「キミを雇って、うち潰れへんか？」と言われました(笑)。

準備していた「細かいアセスメント」が評判となり、口コミが広がり、夏休みに支援学校からの実習生が40名ほど集まっていました。しかし、その中で利用につながった方はたったの1~2名しかいませんでした。

「課題や支援」を伝えるだけではニーズに応えられていない。

もっと工夫が必要だと考え、支援学校に通っている親御さん向けに、勉強会を始めました。卒業後の福祉サービスや、就職後に職場が求めることについて、講師を招いて聴いてもらう場を設けました。勉強会の後はランチを食べながら支援員たちと交流するようになりました。色々な話をする中で、気付いたことがたくさんありました。自己満足の支援ばかりをしていたらダメだ。利用者さんが求めることを提供していかないと、と思いました。

勉強会を開催することで、自身の支援に変化が生まれました。

親御さんと信頼関係を築けたことも大きかったです。実習の様子を写真に撮ってLINEで送ると、とても喜ばれました。7月に開催しHITさんにも協力頂いた就労移行支援事業所やA型・B型事業所を集めた合同説明会も、親御さんからのアイデアで実現しました。

年に一度、10ヶ所ほどの事業所さんに集まって頂き、一日かけて説明会を開催しています。支援学校の保護者の方が、たくさん集まって下さいます。

合同説明会について「何の意図で説明会をするのですか？」と言われることもあります。しかし矢野社長は理解してくれて、「地域ネットワークの旗を振れ」と助言をもらったことがありました。

ネットワークを広げることで、支援の視野は拓けていきます。

だからこそ現在は、諸先輩方や他事業所の若い支援員さん達と話すうちに、「次世代を育てる」というのは大きなテーマだと感じるようになりました。多くの人財が残っていく業界にしたい。同世代で活躍している支援者さんに相談し、勉強会を始めることになりました。20代の支援員さんたちに、「あんな先輩のようになりたい」と思える人たちに会ってもらいたい。一昨年前からスタートし、2ヶ月に一度、30名ほどが参加して下さっています。

有難いことに地域連携に動いても、社長をはじめ、現場の皆さんがサポートしてくれます。やはり自分の事業所がバラバラでは、外部と連携することはできません。「外部の研修に参加したい」という人は多いと思います。しかし参加するだけではなく、ちゃんと内部に還元できているか。現場の支援員さんが外部と繋がりたいときに後押しできているか。外部とつながったことだけで満足していないか。単に知り合いが増えただけでは、真のネットワークとは言えません。

私はHITさんと天王寺区の自立支援協議会で出会えたことに大きな喜びを感じています。多くの方々と繋がることで、歴史のある社会福祉法人・NPO法人が挑戦し続けてくださるからこそ、「今」があり「未来」に続くのだと実感しています。

より素晴らしい未来を拓くため、今後とも仲良くどうぞよろしくお願い致します。

目次 HITニュース No.63

- ・ 巻頭言「ネットワーク構築が多くの『可能性』を見つける」
矢野紙器株式会社 就労移行支援事業所
ネクストステージエイブル 川崎 敏行 2-3
- ・ 特集 「セルフフィーズ」の活動を追う 前半 4-8
- ・ せせらぎクラブ便り 9
- ・ 当事者の声「学ぶと言うこと。」 階 京介 10
- ・ 「障大連対府交渉に行ってきました！」 11

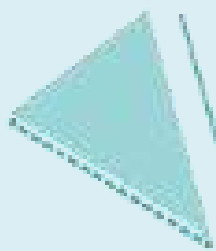


特集「セルフフィーズ」 前編 の活動に迫る

セルフフィーズは心の病気と精神障害についての理解を広げるために、精神障害者が語り部として自らの体験を語る事に取り組んでいる当事者活動です。小学校、中学校、高校、大学、専門学校などの教育現場、保健福祉機関、精神障害者の家族会、教職員や福祉団体の人権研修など様々な所に出向き、交流を通して語り部活動をしています。

セルフフィーズの活動を支えることは当事者の活動を大切にし、当事者のエンパワメントをめざしてきたヒットの重要な役割であると考えています。

今回のHITニュースの特集はセルフフィーズの語り部活動にフィーチャーしてみました。セルフフィーズで長く語り部の活動を行っている、佐々木寿世さんと武藤文一さんにお話をお伺いしました。



語り部

佐々木寿世さん



「命に国境はない」と実感

セルフーズという名称では無かったんですが、名前や形を変えながら10年以上語り部活動をしてきました。非常勤職員としての活動もその中には含んでいます。セルフーズに参加して一番良かったことはたくさんの人に出会えたことです。同じ病気の人ともたくさん出会いました。この出会いがあって「自分には自分にしかできないことがある」と思うようになりました。もちろんその人のすべてが分かる訳ではないけれど、自分がしんどいからこそわかることや伝えられることがあると思っています。

あとヒットからの研修でカナダに行かせてもらったことも語り部として活動する事の支えになっています。障害や病気に立ち向かいながら、障害者への差別や偏見をなくしたいという一つの目標に向かって進んでいくパワーを感じました。この広い世界に障害を持っている人がいることを知りました。交流することで自分の視野が広がったと思います。命に国境はないというのはこのことだなと実感しました。

「自分に厳しく」を少しゆるめて

今でも気が滅入る日も苦しい日ももちろんあります。でも昔に比べて元気になったなと思います。この活動をはじめて、元々は自分が嫌いだったけれど、少し好きになりました。楽しいことも多いし、スタッフが楽しそうですねと言ってくれます。主治医から自己中心的だと言われたこともあったんですが、今は他人の事も考えられるようになったと言ってもらえます。

自分に対して、厳しく生きてきましたが、今は厳しすぎるのはダメだと思っています。他人に対しても許せなくなってしまうから。

恋バナで盛り上がることも…

先日武庫川女子大学に交流に行きました。グループになって話したんですが、学生さんが凄く緊張された顔で、私の話を聞こうとされていて…。ちょっと気まずかったんで、恋バナをしたんですよ。そうしたら盛り上がって、そこから一気に距離が近くなって話が弾みました。私もとても楽しかったです。

今後の活動について

最近ではピアの活動を行っている団体も増え、先日は北海道の「ここりか」さんとの勉強会・交流会を行いました。これからも交流してたくさんの人と出会いたいですね。他のメンバーさん達にもどんどん外に出て、いろんな人と出会ってほしいです。出会いってどこに落ちているかわからない、縁ってそういうもんですよね。そこで、病気の話共有すると救われることがあるんです。

セルフーズの活動は出来る限り続けていきます。セルフーズの講演の後にはいつも「To Be Continued…」という気持ちです。



語り部

武藤文一さん



「怖い人じゃないよ、変な人じゃないよ」と伝えたい

語り部活動を始めた当初は精神障害者に対する偏見を取り除きたいと思ってやってきました。高校生や大学生が感想に精神障害者は怖くない、変な人じゃないと思ったと書いてくれているのを見た時は本当に嬉しかったです。小学生への語りの時には優しい人と言ってもらいました。

僕はいつも語りの最後に歌を歌います。自分のやっていることを歌で伝えたいんです。感想には歌の事を書いてもらうことも多いです。障害のことは歌では伝わっていないかもしれないけど、語り部として何をしているかは伝わっているかなと思います。自分の作品を伝えられる場がある事が嬉しいです。

ただ自然体でありのまを話しているだけ

家族会の人に語りを行った時に「なぜそんなに上手に話せるの？うちの子にはとてもできない」と言われたことがあります。学生の時には学級委員長をやっていたこともあって人前で話すのは得意です。でも病気でしんどい時期も当然ありました。今は語りの時にはただ自然体で、ありのまを話しているだけです。

精神障害者もみんなと同じように生きている

精神障害者がおかしな人だと思われることがあります。日本で精神障害者の数は四国の人口に近い人数だと聞いたことがあります。僕、ビックリしてね、そんなにいてるんや！って。(当時の話。現在は精神障害者数の方が多くなっています。)でもそれと同時に、精神障害者ってそれだけ普通に生きてるってことやん、とも思ったんですよ。だって、日本中でそれだけの人がおかしかったらもう大変なことですよ。実際は何事もなく過ごしているんです。

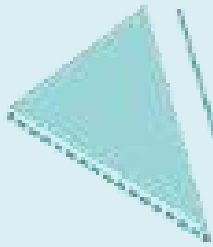
精神障害者になっても、感じることもあるし、思うこともあるし、聞きたいこともあるし、伝えたいことがあります。みんなと同じように生きているんだということを分かってほしいんです。当たり前と同じ地域に暮らしているんだと知ってほしいですね。



セルフフィーズ定例会の様子

これからも語り部活動を続ける

語り部活動の良いところの1つにはプライバシーをきちんと守ってくれるというところがあります。そして、毎日ではないので無理がなく、体への負担も少ないです。何よりも1番はやりがいがあることです。人に話すことは好きです。僕にも伝えられることがあるなら伝えたい。これからも語りが月1回くらいあれば嬉しいなと思っています。70歳を超えても元気に活動していきたいです。



HIT ニュース編集部より

佐々木さん、武藤さん、貴重なお話をありがとうございました。

残念ながら精神障害者に対する理解不足が差別や偏見を生んできた歴史があります。セルフீズの講演は、精神障害者の語りを聞くことで精神障害者とはどのような人たちなのかを知り、一人一人の立場に対する理解を深めていきます。同じ障害を持つ人やその家族は、同じ苦しみを抱えて生きてきた仲間の姿に直に触れることで、見いだせる希望や目標があります。そして語り部は「経験そのものが誰かの支えになる」「経験が誰かの役に立つ」という実感を得て、その実感こそが語り部自身のリカバリーとなるのです。ここでいうリカバリーは病状が良くなるということではありません。病気や障害にとらわれず、希望や目標を持って、自分のできることに着目し、自分らしく生きていく過程のことです。

セルフீズの事務局員であるヒットのスタッフは、長く※就Bで勤めてきた経験があります。セルフீズに関わり、「言葉の持つ力」に驚いたと話してくれました。自分たちがいかに1つの面でしかその人を理解しようとしていなかったか、アセスメント票など文字を読んで、その人の事を理解したと勘違いしていたことを思い知ったそうです。言葉でその人がその人の人生を語り、それを聞く。語りを聞くことと文字で読むこととは同じようで全く違う、聞いている人の心への入り方が違うんだと教えてくれました。セルフீズに関わるようになり、人を見つめる視点が変わり、考える力がついたそうです。

今回お話を聞かせて頂いた、佐々木さんも武藤さんも、精神障害と向き合いながらセルフீズの活動に誇りを持っておられることが伝わってきました。セルフீズはこれからもつねに活動に誇りを持ち、語りを通して、障害と向き合い、偏見や誤解を解きながら、命の大切さを伝え続けます。

次号の特集は、実際のセルフீズの活動に同行し、ルポをお伝えしていきます。セルフீズの活動を肌で感じていただける記事をお届けします。

※就B・・・「就労継続支援B型」の略称。障害や難病のある方が一般企業と雇用契約を結ばずに軽作業などの就労訓練を行える、福祉サービス。自分のペースで働きながら就労に関する能力の向上を支援する。

せせらぎクラブ便り

こんにちは、吉成香です。今、この原稿を書いているのは10月半ばです。今年も、去年の様に急に秋が深まり、外を歩くとキンモクセイの花の香りがして、一年で一番好きな季節だけれど、あっという間に一年が終わってしまうと思うと、「一日一日を大切に過ごさないといけないな」とキリッとした気持ちになっています。私がせせらぎクラブに入ってから、いつの間にか半年余りが過ぎました。今は、電話をかけて来て下さる方も名前を覚えてくれたり、スムーズに話しが出来る様になったり嬉しい事が沢山あるので、楽しく活動をさせてもらっています。

吉成 香

こんにちは友宏です。暑かった夏が続くかと思えばあっという間に秋に突入して、すずしくなりましたね。ただこの時期は花が咲くので写真好きにはじっとしてられない季節になります。秋薔薇やコスモス、ダリア等々電話相談ではなかなか安定した相談が寄せられていないので、皆さん体調の方や人間関係等々しんどくはないか心配です。と言う僕も季節の変わり目にやられてしまい、作業所休みがちです。でもまた来てくださいと行ける所があると言う安心感があります。せせらぎクラブも毎週水曜日に電話すれば、誰かに繋がれる1つと思ってくれたら僕達も頑張っている原動力になれるかなと思っています。

それとマイペースでお互いやっていきましょう。

せせらぎはそんな空気に包まれています。ちょっと掛けてみよう交流会に出掛けてみようとして少しでも思われたらそこは僕も応援させていただきます！

鈴木 友宏

せせらぎクラブ支えあい電話
毎週水曜日13時半～16時半

☎06-6973-4121

担当 山中 実 鈴木 友宏
吉成 香



学ぶと言うこと。

階 京介

僕が実家に帰省していた時に、母から一葉の白黒写真を渡された。その写真には、綺麗な女性が一人、写っていた。僕は母に、「この人、誰？」と問いかけると、母は、「これは、お母ちゃんのお母ちゃんや」と言って笑った。僕は、それを聞いて、「へえ、そうなんだ」と思った。母の母、つまり僕の祖母だが、母方の祖父も祖母も早くに他界していた。だから、祖母の顔を見るのは初めてのことだった。祖母は、明治、大正、昭和、にかけて生きてきた人だ。母は今の家に、養女としてきたので、養父、養母、に遠慮していたのかも知れない。殆ど、母から、実の祖父、祖母に関しての話を聞いたことがなかった。母は何を思ったのであろう？ 85歳を過ぎて、僕に実の祖母について語り始めた。「お母ちゃんのお母ちゃんは、小学校しか出とらんや。昔はな、子どもは労働力だな、特に、女の子には、学問はいらん、言う時代だったんや」そう言う母も、太平洋戦争の後、中学をきちんと出たか出ないくらいで働き始めた。母はそれでも、本が好きで、仕事のあいまに本を読んだ。それが、母の「学び」だった。母の本当の夢は、作家になることだった。若い頃、作家の藤本義一に出会ったことが自慢だった。僕たち子どもらに、よく嬉しそうに話をしてくれた。

僕の家は貧しかったが、母は僕らに幼少期の頃から、本を与えてくれた。特にこれと言って、学校の勉強以外、何の教育も受けたことはなかったが、読書の習慣が、子どもの時から自然に身についていた。他に何も娯楽もなかったと言うこともあるが、僕は小学校6年生の時から、それとなく、遊び半分で、大学ノートに小説を書き始めた。もしかしたら、母自身が作家になりたかったから、まんまと、母の目論見通りになったのかも知れない。でも、結局、僕も、30歳くらいまで頑張ったが、その辺で、才能がないのに気がつき、今は、個人的に、誰に見せることもなく、趣味で書いている程度だ。けれども、小説を書くことは「人生の勉強」も含めて、万学を学ばなくてはならない。もちろん、今も道半ば、である。生きてゆくこと自体が勉強だが、母は、子どもたちに、「本」と言うツールを使って、学問とは何かを教えたかったのだと思う。そして、それは、母の母、祖母の悲願だったに違いないと思う。

今、僕らは本当に学ばなければならないと思う。「学び」にゴールはない。人は死ぬまで学ばなければならないと思う。テキストを開いて、と言っている訳ではない。学歴を問うているのでもない。「学ぶと言うこと」は、すなわち、みんなが笑顔で生きられる、「平和」な世界にすること、だと思うからである。

大阪府とのオールラウンド交渉に行ってきました

2023年7月13日に※障大連と大阪府とのオールラウンド交渉(以下:対府交渉)総決起集会と中央区民センターから大阪府庁まで約2kmのデモ行進が行われました。ヒットからもタストとあしすとの利用者3名が参加し、初めて参加された方からは「あしすとのスタッフから決起集会とデモがあると聞いて、初めて参加した。内容は難しかったが勉強になった。発言していた人は、勇気があってすごいと思った。」と感想をいただいています。

また、2023年8月29日、8月30日の2日間による対府交渉が行われ、ヒットは29日の交渉に参加しました。ヒットからはタスト利用者の松本佳祐さんが就労継続支援B型事業所の減算問題について発言されました。「精神障害者は日によって体調に波があり、毎日通所することが難しい方も多くいます。

毎日通所できる方も、少日数・短時間利用している方も、それぞれ利用者1名としてカウントする必要があります。総利用時間を日数で割ると、平均利用時間が短くなり、結果、平均工賃額が下がり報酬額が大きく引き下がってしまいます。事業所としては利用の形態にかかわらず、利用者自身が地域で働きたいという思いに対し支援を行っています。しかしながら、この減算がまかり通ってしまうのであれば、なかには少日数・短時間利用者を事業所自体が利用者をふるいにかけてしまうことにつながりかねない。社会参加の機会を奪われるという事態に発展しかねません。

後日、大阪市の広報より回答では、「大阪府としましても、実態や課題の把握に努めるとともに、それを踏まえた提案や要望を、引き続き国に対して行ってまいります。」との内容でした。多くの利用者が今後も活動する機会が奪われるようなことにならないよう、ヒットとしても継続して動向に注視し、声を上げていきます。ご協力よろしくお願い致します。

※障大連・・・「障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議」(障大連)は、1980年に府下の障害者団体、親の会、労働組合、民主団体が集まり結成され、障害者自身の立ち上がりを基礎に、すべての障害者の自立と完全参加をめざし活動をしている団体。



ヒット事業所一覧

地域活動支援センター(生活支援型)

憩いの場、食事・入浴サービスと相談支援事業(電話・面談・訪問・情報提供等)、長期入院者の退院支援、計画相談支援事業を行っています。また、当事者活動「せせらぎクラブ」の活動拠点となっています。

□精神障害者地域生活支援センターすいすい
火～土 10:00～17:00 Tel. 06-6977-0114
〒537-0024 東成区東小橋 1-8-12

グループホーム

入居者の個別のニーズを共に確認し、医療機関等の他機関と連携しながら支援を行っています。

□グループホーム HIT

訪問事業

ヘルパーや看護師を派遣し、生活面や医療面のサポートを行っています。

□居宅訪問介護事業 ヒットハンズ
月～金 9:30～17:30 Tel. 06-6731-2300
〒544-0031 大阪市生野区鶴橋 2-18-11

□訪問看護ステーション ひっとほっと
月～土 9:30～17:30 Tel. 06-6191-7757
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 4-16
ウエイブビル 1 階

就労継続支援 B 型事業所

同じ障がいを持つ仲間同士、喜びも悩みも共感し合いながらそれぞれの無理のないペースで作業に取り組んだり、余暇活動を楽しんだりしています。一人ひとりが安心して目標に向けて準備をしていけるよう、医療機関や各関係機関等とも連携をしながらしっかり丁寧にサポートしていきます。またイベントへの参加など社会参加の機会も多く、地域とのつながりを大切に活動を行っています。

□あしすと
月～金 9:00～16:30 Tel. 06-6191-7755
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町 4-16
ウエイブビル 1.2.3 階

□タスト
月～金 9:00～16:30 Tel. 06-6975-8050
〒537-0024 大阪市東成区東小橋 3-1-15
NKB ビル 2 階・4 階

□むつみ工房
月～金 9:00～17:00 Tel. 06-6773-0418
〒543-0002 大阪市天王寺区上汐 4-5-11
吉祥苑マンション 101 号

生活介護事業所

送迎や食事・入浴サービスを行っています。またプログラム活動や生産活動、等の機会を提供することでそれぞれのニーズに合わせた支援を行っています。時間に縛られずのんびりと過ごすことが可能です。

□アトリエ・IK
月～金 9:00～17:00 Tel. 06-6711-2235
〒544-0031 大阪市生野区鶴橋 2-18-11

□ゆめくらぶ
月～金 9:30～17:00 Tel. 06-7891-8084
〒544-0034 大阪市生野区桃谷 1-13-1
新栄プロパティ桃谷 2 階

ヒット会費納入について

会費の納入がお済でない会員の皆様は、下記の口座へお振込みをお願いいたします。
同時に新規会員も大募集しております。ぜひ皆様もヒットを支えるお一人になっていただけませんか？心よりお待ち申し上げます。

振込講座：郵便振替
講座番号：00990-4-110460
加入者名：特定非営利活動法人 精神障害者支援の会ヒット

●HITニュースみんなのご意見箱

皆様のご感想、ご意見を大切に、これからのHITニュース運営・編集の参考にさせていただきます。編集スタッフ一同、心よりお待ちしております。
※HITホームページの右下にご意見箱の入口があります。
HP: <http://www.npo-hit.or.jp>

●HITニュース当事者の声投稿募集!!

まずは、お気軽にご相談ください。

・電子メール: news@npo-hit.or.jp

・電話: 06-6977-0114 (HIT ニュース担当者宛)

文書・イラスト・写真など表現は自由です。文字数は800 字程度、画像のサイズはご相談ください。

皆様からの投稿お待ちしております。

発行人：関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区
真田山町 2-2 東興ビル 4 階

HIT ニュース

2023 Dec. No. 63

編集：特定非営利活動法人
精神障害者支援の会ヒット
HITニュース編集部

〒537-0024
大阪府大阪市東成区東小橋 1-8-12
地域生活支援センター すいすい内

Tel. 06-6977-0114
Fax. 06-6975-9955